

# 1月の植物

## ツルコウジ (サクラソウ科)

学名 : *Ardisia pusilla* A.DC.var. *pusilla*

お正月になると赤い実をつける植物（樹木）に脚光が集まる。本来は鳥に種を運んでもらうために目立つように赤色をしているのだが…。ナンテンは「難を転じる」、センリョウは金目の「千両」、マンリョウは「万両」、ヤブコウジは「十両」とある。センリョウは実が葉の上につき、樹形がすらっとしているので主に生け花に用いられ、マンリョウは葉の下に実をつけ、こっそりしているので庭に植えられるようだ。カラタチバナの金目は「百両」、葉の形状がすらっとしていて美しく、江戸時代には人気が高く百両以上で売買される品種があったとされている。「レッドデータリスト佐賀2020」では準絶滅危惧種に指定。

同じ赤い実をつけるが正月飾りに用いられることもなく目立たないのがツルコウジ。金目は「一両」。一見、ヤブコウジに似るが、雑木林の林床に申し訳なさそうに這いながら伸長する。11～2月ごろ、輝きがヤブコウジよりやや少ない赤い実をポツンポツンとつける。可愛い植物だが「一両」とされたのもうなずけないでもない。花は6～8月に5深裂の白色の小花が下向きに咲く。葉は3～5個が輪生状につき、鋸歯が目立ち、全体に軟毛が密生する。探すのに一苦労する植物でもあるが、県内各地の低い山の林下に普通に分布しているようだ。（文責：井手義信）



2018.1.1 武雄市

参考文献 佐賀県植物目録—1981—, 佐賀県レッドデータリスト (2020)  
佐賀県の樹木 (貞松光男), 樹に咲く花 (山と溪谷社), 日本維管束植物目録